

事前にいただいた質問票による質疑の概要

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

【点検・評価についてのご質問】

- Q : 7号機と6号機で、系統単位までの健全性評価結果の比較ができるなら、それを行って6号機の健全性を明らかにし、プラント全体の機能試験の開始を早められないのか。
- A : 6号機と7号機は非常に似ている構造でできており、データの比較は重要です。ただし、健全性評価は個別に、一つひとつ着実に、あわてずにチェックしてまいります。

- Q : 品質の向上について、部品は定期的に交換しているのか。
- A : パッキンやガスケットなどの消耗品は、分解するたびに交換しています。ポンプや弁などは定期検査で点検し、必要であれば交換は行いますが、時期は異なります。
また、改良されたものに交換すれば、性能もよくなりますので、順次新しくしています。

- Q : 7号機は築何年になるのか。使用を停止するのはいつになるのか。
- A : 営業運転を開始したのが平成9年7月なので12年になります。
使用期間について、30年というのはプラント契約時に設計の基準としているものであり、寿命ではありません。再評価をすればもう少し長く運転でき、国が60年としています。
なお、30年経過後は10年ごとに高経年評価（疲労や耐震性など）を行い、国へ報告することがルールとなっています。

- Q : 地震による被害を直したと言っても、いつひび割れや事故が起きるか心配である。
- A : 健全性確認において止める・冷やす・閉じ込める機能や、健全に運転するための設備に影響はないと評価しています。今後も今回の地震に関係して特別な保全計画を定めて国に報告し、一定の損傷等があった軽微なものは継続して監視してまいります。

【7号機のプラント全体の機能試験についてのご質問】

- Q : 7号機のプラント全体の機能試験で確認された不適合は何件か。その内容についてしっかり公開すべきではないのか。
- A : 試験では75件の不適合を確認しましたが、安全上の問題はありませんでした。ご説明した8件以外のものは、油のにじみや指示不良など日常メンテナンスの範囲です。
また、これらの結果は国へ提出した報告書にも記載していますし、ホームページ上でも公開しています。

【参考 7号機プラント全体の機能試験 評価報告書の提出】

<http://www.tepco.co.jp/cc/press/09062303-j.html>

Q : 試験中に検出されたヨウ素 133 について詳しく知りたい。これは自然界にあるものなのか。また、ヨウ素 131 やその他核種は検出したのか。

A : ヨウ素 133 は半減期が 20.8 時間であり、自然界には存在しません。ヨウ素 133 は原子炉の中でウランの核分裂により生じます。燃料被覆管の表面に付着したウランや燃料被覆管にわずかに含まれる不純物ウランから出たものです。
なお、今回の試験中、ヨウ素 131 やその他の核種は検出されていません。

Q : 通常の運転時と今回のプラント全体の機能試験で、放射線の量を比較してほしい。

A : 通常運転時ではヨウ素や粒子状の放射性物質はほとんど放出していません。参考までに中越沖地震時に放出したものと比較すると 200 分の 1 程度になります。

Q : 放射能を出しているので、起動をやめて廃炉にしてほしい。

A : 放射能を放出したことにつきまして、大変ご心配をおかけしました。
ご理解いただきたいのは、その量は法令で定める値や基準値に対してごくわずかであるということです。今後も放射性物質の放出や放射線管理については、合理的に達成できる限り低く保つよう徹底してまいります。

【地震動についてのご質問】

Q : 6号機はロッキング現象で上下動が大きいですが、安全上問題はないと説明している。本当に6号機の健全性は保たれているのか。

A : ロッキング現象は直接測れるものではありませんが、ロッキング現象で上下動が大きくなったものと仮定してます。6号機の地震計は建屋の端にあり、検討・計算した上でロッキング現象の大きさの分を取り除くと、他の号機の大きさとはほぼ同じになることから、仮説は正しいものと考えています。
6号機の健全性については、ロッキング現象を含んだ大きな上下動に対して評価されており、結果として健全性は保たれています。

Q : 活断層が発電所の敷地の下まできているのに大丈夫なのか。

A : これまでも説明会などで活断層の調査計画・評価結果などをご説明してまいりました。例えば長岡平野西縁断層帯では長さや角度をより安全側に見積もって評価し、基準地震動に反映した上で新たな耐震強化をしています。また、これらの結果は専門家などにもご審議いただいた結果を踏まえており、活断層による揺れをしっかりと考慮し安全性を確保するよう設定しています。

Q : 新しい知見の拡充を行ってから、起動すべきでは。

A : 調査としては十分に行っており、その結果については専門家からも評価いただいています。例えば佐渡海盆東縁断層はもっと長いと主張する先生もいらっしゃいますが、当社および国が独自に調査をしていて、それぞれの結果などから海底面の地形は海岸の形成過程でできたもので、活断層の長さには問題はないものと評価しました。
今後、もう1歩進んだ耐震設計のデータとするためにも、新しい知見の拡充を積極的に進めたいと考えています。

【その他のご質問】

Q : 世界的に原子力が見直されているが、各国の取り組みはどうなのか。

A : 原子力の特徴は、値段が高い化石燃料を使わないことや、環境的に優れていることなどがあり、世界的に注目されています。近年、アメリカやイギリスなどの先進国から産油国の中東まで、原子力に興味をもっていますが、経済情勢や環境問題などが関係しているものと思われます。

Q : 日本の先進的な技術（特にA B W R）について聞きたい。

A : 日本はこれまで継続して原子力発電所を作っており、工程通り建設できることや品質が高いことなどの実績から、世界的に注目されています。例えば燃料の漏えい率や原子炉などの鍛造品の技術などに関する信頼度が高く、品質は高いといえます。

また、A B W R（改良型沸騰水型原子炉）は先進的な技術であり、世界各国も多く採用しようとしています。

Q : 1号機～5号機の運転再開の見通しは。

A : 各号機ごとに国に提出した計画書に基づいて点検・復旧などを進めています。運転再開の具体的なスケジュールについて申し上げる段階ではありませんが、安全を第一に進め、その状況については皆さまにわかりやすくお伝えしてまいります。

以上